剰余類群

整数をnで割った余りの等しい整数を同じもの(剰余類)として集めた集合を剰余類群といい、 $\mathbb{Z}/n\mathbb{Z}$ と書く。

整数の加法 (+) をそのままこの剰余類群の演算として定義できる。

準同型写像(群)

G, H を群とする。

$$f:G\to H$$
 (1)

写像 f が準同型であるとは次を満たすときをいう。

$$[\forall a, b \in G] \qquad f(ab) = f(a)f(b) \tag{2}$$

この時、単位元 $e_G \in G$, $e_H \in H$ について、 $f(e_G) = e_H$ が成り立つ。

問題

 $\mathbb{Z}/6\mathbb{Z}$ と $\mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ を加法群とみなす。

1. $1 \in \mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ は $\mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ の生成元となることが正しいか否かを答えよ。

.....

 $\mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ の要素は次の通り。

$$\mathbb{Z}/9\mathbb{Z} = \{\bar{0}, \bar{1}, \bar{2}, \bar{3}, \bar{4}, \bar{5}, \bar{6}, \bar{7}, \bar{8}\} \tag{3}$$

これらは以下の演算により計算できる。

$$\bar{0} = \bar{9} = \bar{1} +_9 \bar{1}$$

$$\tag{4}$$

$$\bar{1} = \bar{1} \tag{5}$$

$$\bar{2} = \bar{1} +_9 \bar{1} \tag{6}$$

$$\bar{3} = \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1}$$
 (7)

$$\bar{4} = \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1}$$
 (8)

$$\bar{5} = \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} \tag{9}$$

$$\bar{6} = \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1}$$
 (10)

$$\bar{7} = \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1}$$
 (11)

$$\bar{8} = \bar{1} +_9 \bar{1}$$
(12)

(13)

よって、1 を生成元とする部分群 $\langle 1 \rangle$ は $\langle 1 \rangle = \mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ であることが分かる。

2. $\forall a \in \mathbb{Z}/6\mathbb{Z}$ に対し、 $a +_6 a +_6 a +_6 a +_6 a +_6 a = 0$ であることが正しいか否かを答えよ。

.....

 $a \in \mathbb{Z}/6\mathbb{Z} \ \texttt{E}$ T S S S S

 $a=\bar{0}$ の時、次のように $\bar{0}$ となる。

$$a +_6 a +_6 a +_6 a +_6 a +_6 a +_6 a = \bar{0} +_6 \bar{0} +_6 \bar{0} +_6 \bar{0} +_6 \bar{0} +_6 \bar{0} = \bar{0}$$
 (14)

 $a \neq \bar{0}$ の時を考える。

a は $\bar{1}$ のいくつかの和で表される。そこで、 $\bar{1}$ の n 個の和として $a=\sum_{k=1}^n \bar{1}$ とする。

$$a +_{6} a +_{6} a +_{6} a +_{6} a +_{6} a = \sum_{k=1}^{n} \bar{1} +_{6} \sum_{k=1}^{n} \bar{1} +_{6}$$

これはk番目の $\bar{1}$ の和をまとめると次のようになる。

$$a +_6 a +_6 a +_6 a +_6 a +_6 a = \sum_{k=1}^{n} (\bar{1} +_6 \bar{1} +_6 \bar{1} +_6 \bar{1} +_6 \bar{1} +_6 \bar{1})$$
 (16)

$$=\sum_{k=1}^{n} \bar{6} = \sum_{k=1}^{n} \bar{0} = \bar{0}$$
 (17)

よって、 $\forall a \in \mathbb{Z}/6\mathbb{Z}$ に対し、 $a +_6 a +_6 a +_6 a +_6 a +_6 a = 0$ である。

3. 任意の群準同型 $f: \mathbb{Z}/9\mathbb{Z} \to \mathbb{Z}/6\mathbb{Z}$ に対し、 $f(a) +_6 f(a) +_6 f(a) = 0$ であることが正しいか否かを答えよ。

.....

準同型写像 f は単位元同士対応する。 $f(\bar{0}) = \bar{0}$

単位元 $\bar{0}$ は $\bar{1}$ の和として表される。

$$\bar{0} = \bar{1} +_9 \bar{1}$$
 (in $\mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$) (18)

$$\bar{0} = \bar{1} +_6 \bar{1} +_6 \bar{1} +_6 \bar{1} +_6 \bar{1} +_6 \bar{1}$$
 (in $\mathbb{Z}/6\mathbb{Z}$) (19)

これらにより単位元 $\bar{0}$ を $\bar{1}$ の和として考える。

$$\bar{0} = f(\bar{0}) \tag{20}$$

$$= f(\bar{1} +_9 \bar{1} +_9 \bar{1})$$
(21)

$$= f(\bar{1}) +_{6} f(\bar{1}) +_{6$$

 $\mathbb{Z}/6\mathbb{Z}$ の元は 6 個足すと $\bar{0}$ になるので、上の式は次のようになる。

$$\bar{0} = f(\bar{1}) +_6 f(\bar{1}) +_6 f(\bar{1}) +_6 \bar{0}$$
 (23)

よって次の式が得られる。

$$f(\bar{1}) +_{6} f(\bar{1}) +_{6} f(\bar{1}) = \bar{0}$$
(24)

 $\forall a \in \mathbb{Z}/9\mathbb{Z} \ \texttt{E} \, \texttt{f} \, \texttt{3}.$

a が n 個の $\bar{1}$ の和として表されるとする。

$$a = \sum_{k=1}^{n} \bar{1} \tag{25}$$

これを用いて f(a) の和を考える。

$$f(a) +_{6} f(a) +_{6} f(a) = f\left(\sum_{k=1}^{n} \bar{1}\right) +_{6} f\left(\sum_{k=1}^{n} \bar{1}\right) +_{6} f\left(\sum_{k=1}^{n} \bar{1}\right)$$
 (26)

$$= \sum_{k=1}^{n} f(\bar{1}) +_{6} \sum_{k=1}^{n} f(\bar{1}) +_{6} \sum_{k=1}^{n} f(\bar{1})$$
 (27)

$$= \sum_{k=1}^{n} (f(\bar{1}) +_{6} f(\bar{1}) +_{6} f(\bar{1}))$$
 (28)

$$=\sum_{k=1}^{n} \bar{0} = \bar{0} \tag{29}$$

以上により $f(a) +_6 f(a) +_6 f(a) = \bar{0}$ である。

4. 群準同型 $\mathbb{Z}/9\mathbb{Z} \to \mathbb{Z}/6\mathbb{Z}$ の総数を答えよ。

.....

準同型写像は $f(ar{1})$ が何になるかで具体的に定まる。

 $f(\bar{1})=\bar{1}$ 、 $f(\bar{1})=\bar{3}$ 、 $f(\bar{1})=\bar{5}$ の場合、 $f(\bar{1})+_6f(\bar{1})+_6f(\bar{1})\neq \bar{0}$ となる為、準同型は存在しない。

 $f(\bar{1}) = \bar{2}$ の場合、 $f(\bar{2}) = f(\bar{1} +_9 \bar{1}) = f(\bar{1}) +_6 f(\bar{1}) = \bar{4}$ となる。これを $\mathbb{Z}/9\mathbb{Z}$ の他の元についても行うと次が得られる。

$$f(\bar{0}) = f(\bar{3}) = f(\bar{6}) = \bar{0} \tag{30}$$

$$f(\bar{1}) = f(\bar{4}) = f(\bar{7}) = \bar{2}$$
 (31)

$$f(\bar{2}) = f(\bar{5}) = f(\bar{8}) = \bar{4}$$
 (32)

 $f(\bar{1}) = \bar{4}$ の場合、同様に考えると次のようになる。

$$f(\bar{0}) = f(\bar{3}) = f(\bar{6}) = \bar{0}$$
 (33)

$$f(\bar{1}) = f(\bar{4}) = f(\bar{7}) = \bar{4}$$
 (34)

$$f(\bar{2}) = f(\bar{5}) = f(\bar{8}) = \bar{2}$$
 (35)

 $f(\bar{1})=\bar{0}$ の場合、全ての要素を $\bar{0}$ と対応づけるため f は零写像となる。 以上により f の総数は 3 である。